

2014. 4. 27 聖別会

IMMANUEL

インマヌエル
中目黒キリスト教会
聖別会マンスリー



2014年

グレイトハウス著「主が聖であられるように」

XVII. 山上の垂訓①「キリスト者の生き方」

テキスト：

「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。」
(マタイ 5:3)

はじめに：「山上の垂訓」とは、

- ・(完全主義を求める) 律法的命令ではない
- ・(絶望を齎すための) 不可能な理想でもない
- ・(終末を求める) 中間倫理でもない。
- ・それは、イエスが齎した「神の国」(マタイ 12:28)で実践される生命的な信仰の描写である。ウェスレーはこれを「聖化の実質=全き心をもって神と人を愛すること」と言った。

1. 「幸い」の教えの概観

- ・9つの幸いは「キリスト者の生き方の精髓」
- ・「幸い」(マカリオス)とは、単なる「幸福」ではなく、「祝福に満ちた神によって祝福された」との意味。
- ・その内容は、倫理的(生活のありようを示す)
- ・その教えは命令ではなく、福音が齎す事実であり、神の国に入った者たちの祝福についての9つの宣言である。

2. 「幸い」の内容

- ・1～3：自分の霊的貧しさを発見する幸せ
- ・4～6：自分のものでない義に渴き、満たされる幸せ
- ・7～9：平和を造る人々の幸せ

3. 第一の宣言：心の貧しいものの幸い

- ・「貧しい」(プーコス)とは、物乞いをせねばならぬほどの極貧状態を示す
- ・霊的には、「神により頼む以外に何も依り頼めない道徳的破産状態を自覚した謙った状態のこと」である(詩篇 34:6、イザヤ 61:1)
- ・「我は罪人の首。されどイエス我がために死に給えり。最初から最後まで私たちの救いは神の憐れみによる」(ウェスレー)

4. 第二の宣言：悲しむものの幸い

- ・「悲しむ」(ペンテイン)とは、「心を刺し貫き、表情に表れるほどの悲しみ」のことである
- ・キリストに近づくほど、自分の罪を痛く悲しむ者となる
- ・他の慰めを拒み、主の愛の新鮮な顕現による慰めのみを求めることで、慰められる

5. 第三の宣言：柔和な者の幸い

- ・柔和とは、弱さではなく遜りのこと
- ・信賴して神の意思に委ね、傷や憎しみを受けても容易に刺激されない素晴らしい精神のこと(1ペテロ 2:23)
- ・その人は、メシヤの王国と共にくるすべての良きものの共同相続人となる

6. 第四の宣言：義に飢え渴く者の幸い

- ・「飢えと渴き」とは、当時の人々には、死活を意味する切実な必要のこと
- ・「義に渴く」とは、「神および人々との正しい関係が緊急に必要」と認めること
- ・実質的に、義と聖は同じもので、「神の像、キリストの心」である(エペソ 4:23-24)